

日立産業用コンピュータ

HF-W2000 モデル 48/45

取扱説明書 追補版

(Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSB 編)

<本追補版の内容>

ご使用の OS が Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSB の場合、
本紙説明をご参照ください。

No.	内容	取扱説明書の 対応する節
1	取扱説明書 追補版について	全般
2	留意事項について	—
3	電源プランについて	注意事項 No. 12
4	セットアップについて	3. 1. 1 節
5	自動更新の設定について	3. 2. 1. 2 項
6	表示言語の設定について	3. 2. 1. 3 項
7	この装置に記録されるイベントについて	4. 1 節, 4. 2 節
8	ハードウェア状態表示ウィンドウについて	8. 1 節 (5)

ユーザーズ
マニュアル

1. 取扱説明書 追補版について

弊社が提供する取扱説明書（WIN-2-0066）は、Windows® 7およびWindow® 10（IoT Enterprise 2015 LTSB）を対象に記載していますので、本紙によってWindows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBに対する説明を補足します。

なお、取扱説明書における“Windows® 10”、“Windows® 10 IoT”、“Windows® 10 IoT Enterprise”および“Windows® 10 IoT Enterprise 2015 LTSB”の記載のすべてを“Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSB”と読み替えてください。

また、本紙に記載のないWindows®の説明や操作手順、画面イメージについては、Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBでも同様となります。

2. 留意事項について

Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBのAモデル（型式：HJ-2045-WEMA）において、HDDへのアクセス負荷が高い状況が続いた場合、稀にRASソフトウェアがHDDのS.M.R.A.T.エラーを誤検出し、状態表示デジタルLED、RASソフトウェアのハードウェア状態表示ウィンドウ、その他ソフトウェアインタフェース（イベントオブジェクト、API、ポップアップ、SNMP）にて通知する場合があります。RASソフトウェアがHDDのS.M.R.A.T.エラーを検出した場合、装置を再起動し、S.M.R.A.T.エラー表示が復旧されるか確認してください。復旧した場合は引き続きご使用いただいて問題ありません。復旧しなかった場合は、HDDにS.M.R.A.T.エラーが発生しておりますので、データのバックアップおよびドライブの交換を推奨します。

3. 電源プランについて

Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBにおいては、電源プラン名が以下の通りとなります。取扱説明書 注意事項 「12. Windows®の設定について」を以下のように読み替えてください。

Windows® 10 IoT Enterprise 2015 LTSB	Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSB
HF-W電源設定	HF-W Power Settings

4. セットアップについて

取扱説明書 「3.1.1 Windows® 10 IoTのセットアップ」を以降のように読み替えてください。

3. 1. 1 Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSCのセットアップ

この節では、プレインストールされたWindows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSCのセットアップ手順を示します。

- Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSCの基本項目を設定します。
- RAS機能のセットアップは自動で行われます。
- 所要時間は約20分です。

● セットアップの準備

下記の項目は、セットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業を開始する前にあらかじめ決めて（確認して）おいてください。

項目	内容
ライセンス証書	この装置本体にライセンス証書が貼り付いていることを確認してください。
ユーザー名	コンピューターの管理者アカウントのユーザー名です。 後からコントロールパネルで変更可能です。
パスワード	ユーザーのパスワードです。 後からコントロールパネルで変更可能です。

● Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSCのセットアップ手順

以下の手順でWindows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSCのセットアップを行ってください。

- ① この装置の電源を入れます。

Windowsが起動してセットアップの準備が行われます。

その後、デバイスドライバのインストールが行われていることを示す「**Setup is installing devices. Please wait...**」のメッセージが表示されます。

- これらの処理には数分かかることがあります、そのままお待ちください。
- 再起動後、セットアップが継続されます。

- ② **[Hi there]** 画面が表示されます。

- 使用する言語および設定項目を選択し、**[次へ]** ボタンをクリックします。

<留意事項>

この装置のタイムゾーンの初期設定は「大阪・東京・札幌」としております。
タイムゾーンを変更した場合、この装置のシステム時刻は「大阪・東京・札幌」のタイムゾーンから時差分変更されます。

- ③ [法的文章をお読みください] 画面が表示されます。
 - ・ 表示内容を確認し、[承諾する] ボタンをクリックします。
- ④ [すぐに使い始めることができます] 画面が表示されます。
 - ・ [カスタマイズ] ボタンをクリックします。
 - ・ 設定については必要に応じオンまたはオフを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
 - ・ 再起動後、セットアップが継続されます。
- ⑤ [このPC用のアカウントの作成] 画面が表示されます。
 - ・ [このPCを使うのはだれですか] にユーザー名を入力します。
 - ・ [パスワードの安全性を高めてください] の [パスワードを入力してください] にパスワードを入力します。
 - ・ [もう一度パスワードを入力してください] にもう一度パスワードを入力します。
 - ・ [パスワードのヒント] にパスワードのヒントを入力します。
 - ・ [次へ] ボタンをクリックします。

<留意事項>

パスワードのヒントを入力する際に、稀に日本語が入力できない場合があります。この場合、以下の方法で日本語入力を行ってください。

- ・ 入力ポイントを [このPCを使うのはだれですか] に移動し、日本語入力が可能であるか確認してください。日本語入力が可能な場合、入力ポイントを [パスワードのヒント] に移動し、日本語入力が可能であるか確認してください。
- ・ 上記の対応を行っても日本語入力できない場合は、セットアップ後にパスワードの再設定を行ない、パスワードのヒントを入力してください。

- ⑥ セットアップが継続されます。
- ⑦ 自動的にサインインした後、「Please wait. The system will restart automatically.」とメッセージが表示されますので、そのままお待ちください。
 - ・ これらの処理には数分かかることがあります。そのままお待ちください。
 - ・ 再起動後、セットアップが継続されます。
- ⑧ 再起動したらセットアップは完了です。この装置にサインインしてください。

以上で、Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBのセットアップは終了です。これ以降は「3. 2 OSセットアップ後の基本設定」に記載の手順に従い、OSの基本設定を実施してください。

5. 自動更新の設定について

取扱説明書「3.2.1.2 自動更新の設定」を以降のように読み替えてください。

3. 2. 1. 2 自動更新の設定

Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSB は、Windows Update より配信される更新プログラムが自動的に適用される設定になっています。システムおよびアプリケーションの更新プログラムが定期的に確認され、自動的にダウンロードおよびインストールされます。

自動更新の設定は、以下の手順で実施してください。

- ① **【スタート】 ボタン**をクリックし、表示されたメニューから **【設定】** をクリックします。
- ② **【更新とセキュリティ】** をクリックします。Windows Update 画面が表示されます。



Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSC の自動更新の設定には以下のような項目があります。

(1) アクティブ時間の変更

ダウンロード および インストールは自動的に行われますが、アクティブ時間中であれば再起動は行われず、アクティブ時間外に再起動がスケジュールされます。お客様の利用環境に合わせて設定してください。

アクティブ時間

アクティブ時間によって、このデバイスを通常使用する時間がわかります。更新プログラムのインストールを完了するために再起動が必要な場合でも、アクティブ時間にデバイスが自動的に再起動されることはありません。

注意: 再起動を試みる前に、ユーザーによってこのデバイスが使用されているかどうかを確認します。

開始時刻

8 00

終了時刻

17 00

保存 キャンセル

(初期設定では 8:00～17:00 が設定されています)

(2) 再起動のオプション

自動更新が実施され再起動がスケジュールされている場合、一時的に再起動の日時を設定することができます。なお、この設定はアクティブ時間よりも優先されます。

設定

再起動のオプション

Schedule a time to restart your device

再起動がスケジュールされている場合、このオプションを使用すると、アクティブ時間を一時的に上書きし、現在の更新プログラムのインストールを完了するためのカスタム時間をスケジュールできます。スケジュールした時間にデバイスが電源に接続されているようにしてください。

オフ

時刻:

0 00

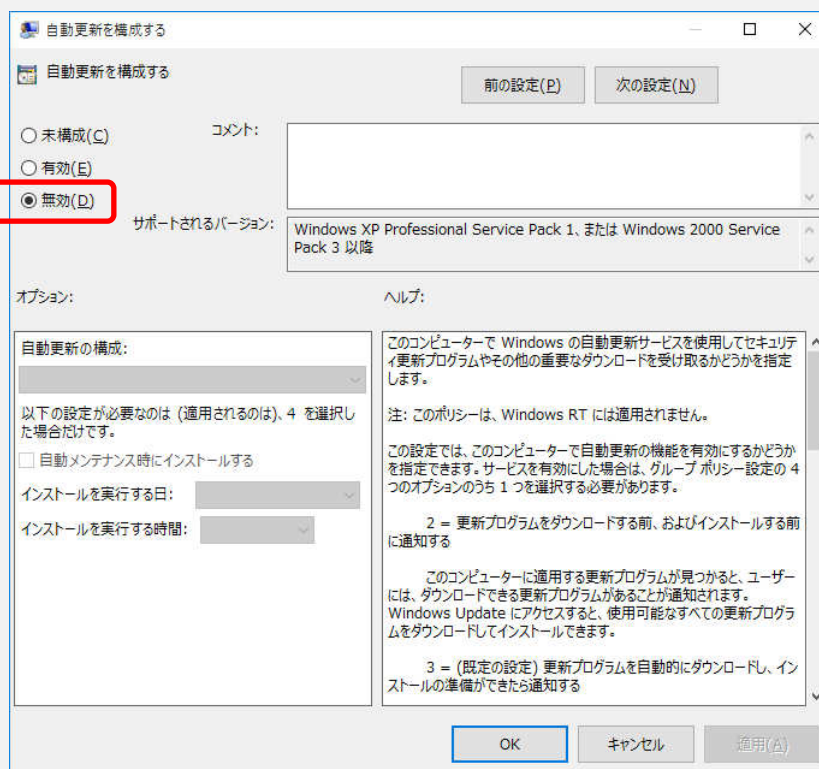
日:

▼

< Windows Update を手動更新にする方法 >

更新プログラムを自動的にダウンロードおよびインストールを行わせたくない場合は、ローカルグループポリシーエディター(gpedit.msc)を使用して、Windows Update を手動更新に設定することが可能です。Windows Update を手動更新にする方法を以下に記載します。

- ① コンピューターの管理者アカウントでサインインします。
- ② [スタート]ボタンを右クリックし「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- ③ 「ファイル名を指定して実行」画面で「gpedit.msc」と入力してローカルグループポリシーエディターを起動します。
- ④ ローカルグループポリシーエディターで、[コンピューターの構成]—[管理用テンプレート]—[Windows コンポーネント]—[Windows Update]—「自動更新を構成する」の項目を開きます。
- ⑤ 「自動更新を構成する」画面で「無効」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



6. 表示言語の設定について

Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSB搭載モデルにおいては、表示言語は日本語および英語の2言語からの選択（初回セットアップ時）となります。表示言語をインストールした状態で出荷しておりますので、リカバリDVDに言語パックは収録しておりません。

<留意事項>

Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSB においても、Windows® 10 IoT Enterprise 2015 LTSB と同様に表示言語を切り替えることが可能です。手順については取扱説明書 「3.2.1.3 表示言語の設定 (2)表示言語の切り替え」を参照してください。

7. この装置に記録されるイベントについて

取扱説明書 4.1節および4.2節を以降のように読み替えてください。

4. 1 セットアップ中のイベントログ記録について

この装置では、OSのセットアップ中に以下のイベントログが記録されることがありますが、システムの動作に影響はありません。

ソース	イベント ID	種類
Search-ProfileNotify	2	エラー
SecurityCenter	16	エラー
volmgr	49	エラー
Service Control Manager	7023 または 7024	エラー
Bits-Client	16392	エラー
Search	1008	警告
e1repress	27	警告
Kernel-PnP	219	警告
User Profiles Service	1534	警告

4. 2 OS 動作中のイベントログ記録について

この装置では、OSの動作中に以下のイベントログが記録されることがありますが、システムの動作に影響はありません。

ソース	イベント ID	種類
DistributedCOM	10010	エラー
Search	3104	エラー
Time-Service	134	警告

なお、イベントID:3104について改善したい場合は、以下を参照してください。

マイクロソフト TechNet

URL : [https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc734543\(v=ws.10\).aspx](https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc734543(v=ws.10).aspx)

OS起動時に以下のイベントログが記録されることがあります。

ソース	イベント ID	種類
DistributedCOM	10016	エラー

イベントログの内容が以下に該当するものであれば問題ありません。

<イベントログの内容>

アプリケーション固有のアクセス許可の設定では、**CLSID {*****}**および**APPID {*****}** COMサーバーアプリケーションに対するローカルアクティブ化のアクセス許可を、アプリケーションコンテナ ***** SID (*****) で実行中のアドレス LocalHost (LRPC使用) のユーザー ***** SID (*****) に与えることはできません。このセキュリティアクセス許可は、コンポーネントサービス管理ツールを使って変更できます。

イベントログに記録された CLSID および APPID が以下であることを確認します。

CLSID	D63B10C5-BB46-4990-A94F-E40B9D520160
APPID	9CA88EE3-ACB7-47C8-AFC4-AB702511C276

CLSID	260EB9DE-5CBE-4BFF-A99A-3710AF55BF1E
APPID	260EB9DE-5CBE-4BFF-A99A-3710AF55BF1E

Windows® 10の場合、ライセンス認証はインターネット接続時に自動で行われます。インターネットに接続されていない環境でライセンス認証が完了しない場合、以下のイベントログが定期的に記録されますが問題ありません。

ソース	イベント ID	種類
Security-SPP	1014,8198,8200	エラー

8. ハードウェア状態表示ウィンドウについて

Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBにおいては、タスクバーを右クリックした際に表示されるメニューが変更されております。ハードウェア状態表示ウィンドウをタスクバーの通知領域に表示する場合、以下の手順で設定してください。

- ① タスクバーを右クリックし、メニューの[設定]をクリックします。



- ② 表示した画面の、[タスクバーに表示するアイコンを選択してください]をクリックします。
- ③ [envdisp MFCアプリケーション] または [envdisp MFC Application]のアイコンをオンに設定します。